

## Ecoで楽しむ暮らし 第5回

### 自宅で電気を作る面白さ

(掲載タイトル:太陽光でちょっと小遣い稼ぎ)

濱 恵介

毎日の暮らしに欠かせない電気は、電力会社が供給してくれ、使った分の電気代は払うもの。これは消費者にとってごく普通のことです。

ところが、自宅で太陽光発電を実践すると、この関係を超えた面白い要素が見えてきます。

私は自宅の省エネ・エコ改修の一環として、約2.7キロワットの太陽光発電装置を屋上に設置しました || 写真。パワーコンディショナーという機械で直流を交流に変換し家庭用の電圧に直して使います。



使いきれない分は配電網に送り返し、電力会社に売ることができます。電力計は買うのと売ると1個ずつ設置され、別々に計量・決済されます。

新緑がまぶしいこの季節、1カ月当たりの発電量はほぼ最大となります。太陽の出ている時間が長く、気温がまだ低く、太陽光がパネル（モジュール）

に当たる角度が適当、という条件が整うからです。

太陽光が自宅の屋根の太陽電池に当たって作りだされる電気は、温暖化や環境汚染を引き起こさないクリーンなエネルギーです。

わが家の場合、去年のデータで1カ月平均の発電量が234キロワット時（売電量176）に対し、消費量は167キロワット時（買電量111）時でした。差し引きで発電が消費を大きく超えています。

電気料金で表せば、払ったのが1カ月約2千円に対し受け取ったのは約4千円でした。単なる電気の消費者から生産者・販売者を兼ねる立場になった訳で、心構えも変わります。

売れる電気を無駄に使ってしまうのは、それこそモッタイナイこと。わが家の電力消費量が格段に少ないのは、その意識が強く働いて様々な工夫をして来たからと思われれます。

「太陽光発電は高い」とか「投資回収が難しい」と言われます。これは現行の価格と制度を前提とした論議に過ぎません。

環境を壊さないという価値を正當に評価し、クリーンな電気を政策的により高い価格で買い取る保証が必要です。つまり制度設計さえ上手にできれば、投資は確実に回収でき、現在足踏みしている太陽光発電の普及は再び加速するでしょう。

大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所 研究主幹